

■取り組みの背景・目的

地域公共交通の再構築を機に市内全体の地域公共交通の利用促進を図り、地域の活性化につなげる

- ・鉄道駅等の交通結節点を中心に地域の拠点を結ぶ新路線バスの実証運行を平成28年度10月より開始。鉄道やバスの円滑な乗り継ぎが可能となる公共交通を構築し、併せて、モビリティ・マネジメント等の利用促進を展開。
- ・人口減少社会が進展する中、「コンパクト&ネットワーク」のまちづくりの理念のもと、地域公共交通の再構築及び地域活性化に取り組むため、茨城県常陸大宮市をモデル地域として、茨城県との共同事業により実施。

＜常陸大宮市の概要＞

- ・茨城県の北西部に位置し、那珂郡大宮町・山方町・美和村・緒川村・東茨城郡御前山村の5町村が合併し、平成16年10月16日に誕生。
- ・人口約44千人の都市であり、約60%は旧大宮町内に居住しており、旧大宮町以外では旧町村単位の総合支所の周辺に多く居住。
- ・市内公共交通は、常陸大宮駅と中心市街地を基点として、鉄道(JR水郡線)及び路線バス、市民バス、乗合タクシーが運行。

＜新路線バスの概要＞

市内循環線

- ・JR水郡線や路線バス等からの乗継利用、大宮地域の高齢者等の買物・通院をターゲットとして、日中の時間帯に常陸大宮駅を起点に市役所や商業施設、病院、道の駅などを結ぶルートで高頻度・循環運行。

小場・村田線

- ・JR水郡線利用による通勤・通学(水戸方面、茨城北西看護専門学校)、高齢者等の買物・通院をターゲットとして、朝晩・日中の時間帯に小場地区から村田地区を経由し常陸大宮駅を結ぶルートで高頻度運行。

緒川・玉川村駅線

- ・JR水郡線利用による通勤・通学(水戸方面、県立小瀬高校)をターゲットとして、朝晩の時間帯に上小瀬地区から玉川村駅を結ぶルートで運行。

■取り組みの特徴

地域と密に連携して運行見直しや利用促進を展開

＜PDCAサイクルに基づいた運行見直し＞

- ・関係者で構成する協議会での議論、乗車実績、利用者アンケート、通学ニーズの動向等を踏まえて、運行ルートの一部延伸、便数や時刻表の見直し及び区間回数乗車券の新設など、継続的に運行見直しを実施。

＜地域と密に連携した利用促進策＞

各種媒体でのPR

- ・新路線バス運行開始式、車両ラッピング広告、市ホームページ・広報誌等
- ・高校生等に対する説明及び小学生向け利用促進
- ・市内小学校にて冬休み期間において、小学生以下は運賃100円制度等
- ・商業施設等とのタイアップ

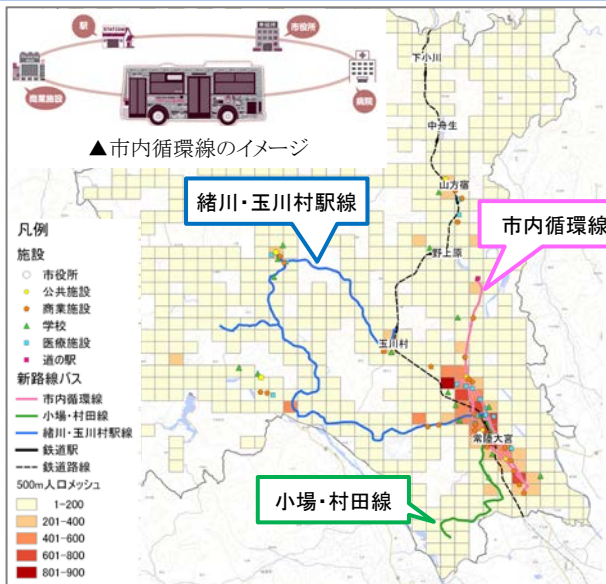
- ・商業施設等(道の駅等)に協力を依頼し、プレゼント提供など、バス利用者へのインセンティブを付与する仕組みにより、潜在利用者等の利用を後押し。

利用ガイドによる地域住民への説明

- ・目的地となる施設等の地図情報や時刻表など、バスの利用方法をわかりやすく明示した利用ガイドを作成し、高齢者クラブや自治会などで直接説明。

お試し乗車キャンペーン、進学・進級時を狙った学生向け利用促進

- ・新路線バスの沿線住民や小学生・中高生等に実際に乗車体験してもらうため、「無料お試し利用券付きのチラシ」を配布し、お試し乗車を実施。
- ・終業式及び合格者説明会で生徒・保護者等に運行内容等を説明し、通学時のバス利用をPR。併せてお試し乗車キャンペーンを実施。

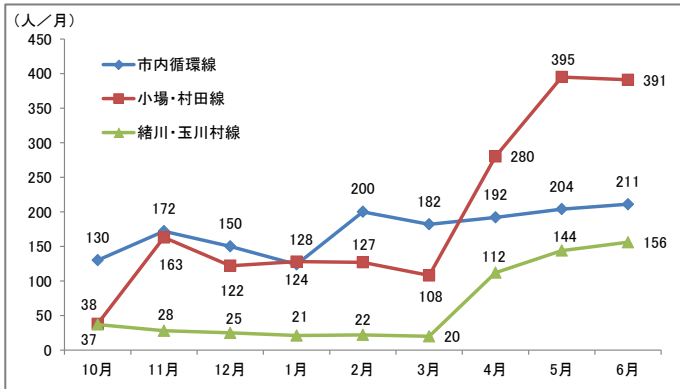


▲常陸大宮市における新路線バスの運行状況

■取り組みの効果

地域への定着が進み、利用者は増加傾向

- ・PDCAサイクルに基づいた運行見直しや地域と連携した利用促進の取り組みにより、利用者は3路線とも増加傾向。現在も実証運行を継続中。



▲新路線バス(3路線)の利用状況の推移

■今後の展開

- ・実証運行から本格運行への移行を目指して、補助路線化等を念頭に運行見直しや利用促進を継続。
- ・地域公共交通網形成計画の策定を行い、既存の公共交通との連携など、常陸大宮市全体の最適な公共交通システムの構築を図る。



▲車両ラッピング広告



▲新路線バスチラシ



▲バスの利用方法を示した利用ガイド ▲道の駅とのタイアップ企画

